

(学年) 第2学年, (教科・科目) 公民・倫理

一斉学習

(単元) 第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚

4 西洋思想との出会い

(本時のねらい)

日本人が築き上げてきた精神文化に着目した民俗学者でもある南方熊楠の思想や, 研究に対する考え方を理解する。原典資料から神社合祀反対運動の背景や理由を理解し東洋的な環境に対する考え方と, 西洋的な現在の環境倫理と対比させ考察することで, 日本人としての今後の環境に対する考え方・あり方を考える。

(ICT活用方法)

倫理の授業は通常, 板書量が多くなりがちであり, ノートを取ることに終始してしまうことがある。本授業では生徒に考えさせること, 考察する上での重要事項をメモすることなどを主眼に置きたい。電子黒板を活用して板書にかかる時間を減らし, また内容も精選して効率の良い学習を進める。また写真や表を多用することで必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取り, まとめる技能の習熟が期待される。

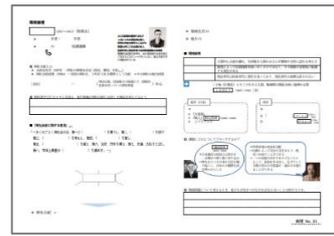
(本時の展開)

時間	学習活動	指導上の留意点	ICT活用方法
導入 5分	・南方熊楠の研究を知る。	・簡単に生涯と業績を紹介する。	・電子黒板に示す。
展開 40分	・神社合祀について知る。 ・反対の理由を原典資料から理解する。 ・環境倫理について知る。 ・課題へのアプローチ方法を考える。	・合祀を実施した背景について, 前時の学習を想起させる。 ・教科書のコラムを読み, 熊楠が神社合祀に反対した理由を考えさせる。 ・西洋と東洋の, 自然に対する考え方の違いを考察させる。 ・学んだことをどのように活かすべきかを考えさせる。	・電子黒板に問いを提示し, 確認する。 ・資料を電子黒板に示す。
まとめ 5分	・考えたことをまとめる。	・生徒端末のワークシートに入力させる。	・生徒1人1台端末を活用し, 自分の考えをまとめる。

(授業の様子)



教材投影方法



ワークシート

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

生徒からは，様々な資料を投影することで視覚的に理解でき，気付きを促されたことに加えて，BGM が非常に効果的だったという声が多く挙がった。この授業は選択者が少ないこともあり，プロジェクターからの音声で十分伝わったが，実施教室は電子黒板が設置されておらず，スピーカー等の設備もない。よりいっそうの環境整備が求められる。また，ワークシートのまとめは授業内では時間不足であった。文字数の制限も含め，推敲は紙媒体よりもワープロで行う方が効率良く行うことができるが，タイピングの入力速度も課題の一つになる。考察は週末課題にするなど，じっくりとまとめる時間が必要であると感じた。